

2010年8月吉日

各 位

第7回日本中性子捕捉療法学会学術大会  
大会長 中村 浩之  
(学習院大学理学部化学科)

謹啓 残暑の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、8月5～6日の2日間、学習院大学目白キャンパス（東京都豊島区）にて開催いたしました第7回日本中性子捕捉療法学会学術大会に際しましては、格段のご高配を賜り誠にありがとうございました。お陰様で172名の方々にご参加頂き、盛会裡に無事終了することができました。これも偏に皆様のご支援、ご協力の賜物と、ここに深く感謝申し上げます。

この厳しい経済状況が続く中にも関わらず、多くの協賛を賜り厚く御礼申し上げます。また、会員のみでなく、会員外の多くの研究者の参加があり、大変嬉しく存じます。

本大会は、“加速器BNCT元年”というタイトルの元に、開催いたしました。2日間にわたり、化学・薬学分野、物理学分野、医学分野から一般公募でお寄せ頂いた42演題ならびに教育講演、特別講演、ランチョンセミナーの分野を超えた熱気あふれる発表と討論を行っていただき、所期の目的を達成できたのではないかと自負しております。正に、加速器BNCTが日本のみならず世界の放射線療法を変えてくれるものと確信いたしました。

また、8月6日、学術大会終了後、本学会が主催しました公開市民講座学際生命科学「東京コンソーシアム」シンポジウムでは、「医学といのち」をテーマに開催いたしました。東京都内外から80名を超える一般市民の参加者がありました。本シンポジウムを通して「中性子捕捉療法」が次世代放射線療法としてその開発が進んでいることを一般市民にも広く伝えられたと思っております。

会期中は、何分不慣れなため、多々不行き届きの点があったかと存じますが、何卒ご容赦の程お願い申し上げます。

本来ならば、直接拝眉の上ご挨拶申し上げるべきところではございますが、取り急ぎ書面にて御礼申し上げます。

今後とも、日本中性子捕捉療法学会へのご支援・ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

末筆ながら、皆様のますますのご健勝をご祈念申し上げます。

謹白